



第48回NM-GCOEセミナー

秋山 一文 先生

(獨協医科大学・教授)

2011.5.27
薬学研究科
2F大会議室

～「統合失調症の病態－認知機能と遺伝子について～」

社会的な損失の大きい精神疾患の中でも、統合失調症は患者数も多く注目されています。しかし脳の高次機能の異常というアプローチがしにくい疾患であるため、詳しいメカニズムは明らかになっていません。今回の秋山先生の講演では、統合失調症の症状、認知機能と原因遺伝子の関連の解明といった研究を紹介していただきました。

統合失調症には、遺伝要因と環境要因が組み合わさることで発症を引き起こすという仮説があります。遺伝要因を示す例として、統合失調症患者さんの親の有病率は健常者の親に比べて高いというデータがあります。秋山先生は現在、1000名以上の統合失調症患者さんの血液サンプルを用いてSNPやハプロタイプといった遺伝的要因の解析を行なっておられます。先生の研究によって統合失調症に関連のある遺伝子変異が発見されれば発症しやすい患者さんをいち早く発見することができ、オーダーメイド医療への応用も期待されるため非常に有意義であると感じました。投薬などによって発症を抑えることもできるため、日常生活への影響が大きい統合失調症を防ぐこともできます。また、認知機能や神経画像などといった中間表現型の研究は、遺伝子と疾患を結び付けることのできる有効な手段であり、統合失調症を研究する上で重要であると感じました。

瀧澤 陽平 (薬物送達学分野・大学院生)



講師：秋山一文先生



- #### 本日の講演の流れ
- ・ 統合失調症とはどういう疾患か
 - ・ 統合失調症と様々な病態仮説 (発達障害仮説、GABA仮説、グルタミン仮説、ドーパミン仮説、sensory gating仮説)
 - ・ 統合失調症の遺伝子研究の現状と問題点
 - ・ 稀な変異(rare variant)に焦点を当てた研究の先駆けとなったDISCI研究の紹介
 - ・ 我々のやっている研究の紹介



大学院生の感想

- 統合失調症についての話は、今までは症状・治療のことがメインの話は聞いたことがあったが、本セミナーでは分子生物学的な話も聞けて、勉強になった。
- schizophreniaについての病態・臨床症状から遺伝子レベルでの最先端dateまで、非常にわかりやすくご教授いただけで、大変勉強になった。医学部の学生時代に講義を聞いていたものの、一層興味深く拝聴させていただきました。
- 統合失調症という難しい精神疾患について、環境的な要因だけでなく、遺伝的因子もあるということを学びました。また、CTの画像などから実際の患者さんの脳の病態を知ることができ、大変有意義な時間でした。統合失調症の患者さんは決して少なくないということだったので、これらが一日も早く画期的な治療法や予防につながればと思いました。